

「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2016～ESD 第 2 ステージ：未来をつくる学びの俯瞰図～」に参加概要報告

奈良市立富雄第三小学校 河野 晋也

平成 28 年 11 月 26 日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、ESD 推進ネットワーク全国フォーラムが開催された。「国連持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年」をふまえて今後の ESD の在り方を考えようとする会議である。2030 年に向けた人類の持続可能な開発の目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」についても、この会議では多くの意見交換がなされた。

プログラムは、SDGs について学び世界の動きから ESD を考える第 1 部『基調パネルディスカッション：ESD が目指す世界』、

多様な主体の協働で継続・発展する「つながりの仕組み」の事例から地域における ESD について考える第 2 部『地域の ESD 先進事例に学ぶ』、新しい官民協働プラットフォームについて共有し ESD の今後について考える第 3 部『持続可能な未来のための協働を俯瞰する』にわかれて行われた。

第 1 部では、誰も置き去りにしない、ということをおお切に、また普遍性、不可分性、統合性を原則とする SDGs についての捉えをパネラーの意見をもとに話し合いつつ、ESD という教育において、どのように実現していくべきかを話し合った。SDGs については 17 の目標全てを網羅的に捉えることは難しく、世界中で様々な紹介動画が作成されているようである。ダンスや歌など、より馴染みやすいツールを使っているものも多い。生徒の捉え方を変革していく上でこうした動画の持つ役割は大きいと感じた。

第 2 部「SDGs と ESD 活動」では、SDGs の活動にどのように貢献できるか、などのテーマでパネリストが意見を交わしていた。特に小学校教員として学校経営に ESD を取り入れ、児童の変容を生み出している永田台小学校の広木先生の話は興味深かった。SDGs はやはり世界の出来事であり、身近であるとは言えない。しかし、そういう遠いと思われる教材には、カードなどの親しみやすい手段を利用して考えさせていきたいと話されていた。17 もの目標があり網羅的になると児童の実感がわか

なかったり、切実感が生み出されにくいことがある。SDGs を教育に活用する場合どのように実施していけばよいのか今後の研究課題としたい。企業と協力して SDGs のカードゲームなども活用する研究を進めておられると聞いた。

このフォーラムは、学校関係者の割合が、これまで私が参加した会議に較べて非常に少ない。その分、企業や NPO がどれだけ ESD に注目しているのか、どのように捉えているのかがよくわかった。決して学校だけが取り組んでいることではなく、うまく連携をしていくことでより子どもの生活に寄り添う実践が可能であるように感じた。学校内だけの学習では、どうしても限定的であり、ESD が目指すのは生活習慣等も含めた行動の改善だからである。ただし、教員との意識の差も大きいよ



うに感じた。それぞれの主体には、それぞれの意図が感じられるし、それぞれの主体なりに学校に対する要望も強く持っているようである。こうしたそれぞれの意見をどのように取り入れ、協働的に進めていくことができるのか、非常に大きな課題であると思う。少なくとも、奈良ではまだまだNPOや企業の取組は大きく見えてこないで、今後の実践の中では子どもの生活に密着したもの、地域や企業を巻き込んだものも、また求められてくるように感じた。